



Association internationale d'orientation scolaire et professionnelle - AIOEP

International Association for Educational and Vocational Guidance - IAEVG

Internationale Vereinigung für Bildungs- und Berufsberatung - IVBBB

Asociación Internacional para la Orientación Educativa y Profesional - AIOEP

## 2015年日本のつくば市で開催された IAEVG 研究大会における、難民の教育及びキャリアにおけるガイダンスに対するコミュニケ

ヨーロッパ中心に問題となっている現代の難民危機は、個人、家族、コミュニティ、国家などに影響を与える世界的な関心事となっている。「予期せぬ危機に直面した際のキャリアの再構築」をテーマに開催された IAEVG 国際学会において、IAEVG 理事会は、難民の教育やキャリアにおけるガイダンスや相談の必要性を示すため以下をプレス・リリースする。IAEVG 理事会は会員に対して、難民のこれらのニーズに応えるため、キャリア・ガイダンス、キャリア政策、そして実践における役割を考慮し、こうした危機に積極的にかかわることを求める。

多くの難民は就学や就業の機会を得ることのできない不安定な状況におかれている。各国政府が保護を求めてきた大量の人々に対し社会的、経済的資源を供給する場合、難民たちは差別に直面し、十分な収入を保障する組織的支援を受けられないことが多い。職業指導は、こうして新たに流入し適切な仕事を求める人々に対し、気づきや援助の機会を与えてきた長い歴史をもっている。

ヨーロッパにおける難民問題が抱える危機により、職業指導に携わるわれわれは、難民が、たどり着いた国に首尾よく定住し、就学や就業へのガイダンスを受けられるように支援するといった役割を通し、吟味し、行動を起こす現代的文脈を構築する機会を提供している。われわれは、難民たちに十分な資源を供給するように声を上げるとき、難民が直面する課題に注意を払うことができる。職業指導を実践するわれわれは、適切な職業を見つけるプロセスの中で難民たちを支援するモデル・プログラムや実践を開発する機会を得るのである。

世界最大のガイダンスの学会として IAEVG は、難民のニーズに積極的に注意を払い、難民たちが移住した先で就学や就労の機会を得るための支援を重ねる努力を、実践者、研究者、政策立案者など関わる人たちに強く求める。

IAEVG の会員は、こうした調査を導入し促進する際に重要な役割を果たし、さらに、難民たちが肯定的な統合を果たし、難民たちが移住先でおこなう努力を政策立案者や雇用者たちが支援できるように影響を与える実践をするのである。

難民が移住先で前向きな融合を果たし将来にわたり就学や就労への支援の提供を受けることを保障するため、政策や取組みは、時機を得たもので、意味があり、多様である必要がある。

## 難民たちへの教育やキャリアに関するガイダンスについての IAEVG によって背景となる情報

難民であるこれらの移住者が、戦争、政治的迫害あるいは安全や安心を脅かすその他の脅威から身を守るために、故国から選択の余地なくのがれてきたとの認識は重要である。こうした状況下では、結果的に短期、長期での家族との離散、財産の散逸、職務証明書や学歴証明書などの喪失などをもたらすことが多い。

難民の多くは最初の亡命国にて、就学や就労の機会がなく、住居も定まらないといった不安な状態に直面する。その後何年か続くこうした状況によって子どもたちは、正式な教育を受けることなく、アカデミックな、社会的な、そして知的な発達におけるギャップに甘んじ、通常の学校教育で享受できる職業情報やキャリア教育を受けることを否定されるのである。こうしたギャップにより、年相応の教育を受け、就業につながる職業スキルを獲得するまでには結果的に長時間が必要になるのである。

周辺国への難民は、移住した先の国々が難民の数を厳しく制限し、社会的、経済的に産み出したものに対し重税を課そうとするなど、差別や十分な収入のある職に就く組織的な支援の欠如に直面する。難民とその国の国民との間にある雇用環境は、難民を分離し、非正規雇用の低賃金のポストを与え、不安定な労働条件に甘んじさせる結果となる。

就学や就労のためのガイダンスは、多面性をもち、故国から逃れてきたことの混乱に直面している個人、家族、コミュニティ集団の固有のニーズに応えるように工夫がなされなくてはならない。難民が就学や就労における主要な文化的違いを乗り越えようとするために、移住した国での生活の中に安心安全を感じるように支援することに主要な配慮が必要である。

就学及び就業のガイダンスの実践者は難民が直面する問題に注意を払い、サービスが供給されるように提唱する役割を担っている。こうしたサービスは、難民のコミュニティやリーダーが難民のニーズやそれに匹敵したサービスを明らかにし、生徒が教育上の移行を円滑に進め、成人が新たな学習システムを享受できるように支援し、雇用システムへの再エントリーのサポートの質を改善するサービスをも包含することになる。個人レベルでは、キャリアに介入するとは、難民が自分のスキルを明らかにすることを援助し、将来への自信や希望を育み、雇用機会を増大させる訓練ニーズを明らかにし、雇用の安定を確保する積極的一步を実現することを意味する。就学や就労のガイダンスを実践する人々は、難民がその地の自分にとって重要な資源を明らかにし、教育的職業的サポートへの総合的アプローチを提供する多分野にわたるチームに参加することを援助するのである。

また、就学や就業においてガイダンスを行う人たちは、難民の一人ひとりと国際資格や学歴を表明する方法について協働し、雇用者や教育機関と協力し難民のスキルと能力をそれに匹敵する仕事とマッチさせる役割を担うのである。難民が自分たちと同じ働きをする現地の労働者と同じ賃金を確実に獲得するという公平性の問題は避けては通れない。

さらに、就学や就業のガイダンスの実践者たちは、難民たちに対する政策展開やプログラムやサービスをデザインする段階で果たす役割を担っている。難民のニーズに関連し政

策立案者たちとロビー活動をしたり、キャリア・ガイダンスがどのように定住と結びついているか彼らに教育したりすることは、難民たちが定住する段階において利用できるサービスを増大する重要な提案となる。

会員たちには、難民たちの多様性に配慮したうえで、難民には何が必要かを決定し、難民たちが利用可能なサービスに影響を与える場で発言権を持つべきであることを認識するよう勇気をもって取り組んでもらいたい。こうした実現のためには、個人や集団の要求は、移住する前の状況や国家とその文化的背景、さらに、移住先である国における移住後の状況によって変化するといったリアルタイムの会員同士の情報交換により多様性への認識が深まるのである。

IAEVG の会員たちよ、難民たちが直面している定住の問題に積極的に介入し、就学や就労システムの意味ある援助を通し肯定的な福祉をサポートするふさわしいサービスを積極的に打ち立てていこう。今は定住に際しての差し迫ったサポートが強調されているが、こうした要求は、時が経ち、世代が交代することで変化していく。難民たちは、今は新天地で避難する場所を探し、自分たちの生きる道を模索しているが、将来は、市民、そして隣人として、一緒に仕事をする人間として定住先の国家に貢献するのである。

翻訳：三村隆男（早稲田大学）